

科目名	生殖生命倫理学 Bioethics in Midwifery
授業形態	講義・演習
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	春BC 金曜3,4時限
単位数	2単位
担当教員名	岡山 久代 Hisayo Okayama 竹熊カツマタ麻子 Asako Takekuma Katsumata 野口 恵美子 Emiko Noguchi 水野 道代 Michiyo Mizuno 川野亜津子 Atsuko Kawano 山下 美智代 Michiyo Yamashita 非常勤講師: 有田 美和 Miwa Arita
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	なし
オフィスアワー等	岡山 久代 4B棟 509 okayama@md.tsukuba.ac.jp オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡をしてから訪問すること
授業の到達目標 (学習成果)	助産師の倫理綱領と看護倫理の原理論について説明できる。 助産領域で生じる倫理的問題や葛藤について、看護倫理の原理論を題材に事例を提示することができる。 自らの発表内容に対する質問とコメントを理解し、討論の内容を以後の看護実践の質の向上に反映するための方向性を提示できる。 他の学生の発表内容を理解し、その意義と欠点を理解し、その向上のためになる質問や討論をすることができる。 助産師の倫理綱領や看護倫理の原理論に基づいて、倫理的な問題や葛藤を調整するために必要な検討事項を列挙することができる。 倫理的な問題や葛藤について関係者間で倫理的調整をおこなう際の具体策を列挙することができる。
他の授業科目との関連	ウィメンズ看護学特論・演習
履修条件	なし
授業概要	助産領域において生じる倫理的問題を理解するための知識についての総合的な講義と、倫理的葛藤に関わる倫理的調整に必要な技能を養うために、事例を用いた討論を行う。
キーワード	生命倫理 Bioethics 助産学 Midwifery 生殖医療 Reproductive Medicine

授業計画	<p>プリントを配布し、それに沿って進める。必要な事前準備をして講義を受けることが望ましい。なお、演習の時間を設ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (5/24 3限) 看護者の倫理綱領と看護倫理Ⅰ(水野) 2. (5/24 4限) 看護者の倫理綱領と看護倫理Ⅱ(水野) 3. (5/31 3限) 看護者の倫理綱領と看護倫理Ⅲ(水野) 4. (5/31 4限) 看護者の倫理綱領と看護倫理Ⅳ(水野) 5. (6/7 3限) 看護者の倫理綱領と専門看護師の役割・機能Ⅰ(カツマタ) 6. (6/7 4限) 看護者の倫理綱領と専門看護師の役割・機能Ⅱ(カツマタ) 7. (6/14 3限) 公正の原理を中心とする問題の理解と討議(水野) 8. (6/14 4限) 公正の原理を中心とする問題の理解と討議(水野) 9. (6/21 3限) 善行の原理を中心とする問題の理解と討議(山下) 10. (6/21 4限) 善行の原理を中心とする問題の理解と討議(山下) 11. (6/28 3限) 自律の原理を中心とする問題の理解と討議(山下) 12. (6/28 4限) 自律の原理を中心とする問題の理解と討議(山下) 13. (7/5 3限) 生命倫理(野口) 14. (7/5 4限) 生命倫理(有田) 15. (7/12 3限) 生殖医療に関する葛藤の事例検討(川野) 16. (7/12 4限) 生殖医療に関する葛藤の事例検討(川野) 17. (7/26 3限) (生殖医療における夫婦の葛藤事例)(岡山) 18. (7/26 4限) (生殖医療における夫婦の葛藤事例)(岡山) 19. (8/5 4限) (生殖医療における子どもの権利と家族の葛藤事例)(岡山) 20. (8/5 5限) (生殖医療における子どもの権利と家族の葛藤事例)(岡山)
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	<p>講義(50%)と演習(50%)を併用する</p> <p>自ら性や生殖医療、助産に関する社会や実践現場の動向に興味や関心をはらい、教員や学生同士で事例や出来事についての討論を常に行い、自らの感性や倫理観を向上させる。</p>
成績評価方法	<p><評価方法と配分役割></p> <p>授業の到達目標の達成状況60%, 授業内での発表内容・参加状況40%</p> <p><評価基準></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適切な問題を設定できる。 2. 設定した問題の背景を説明できる。 3. 設定した問題に対してどのような課題があるのかを指摘できる。 4. その解決策について、先行研究がどのように述べているかを挙げる事ができる。 5. 既存の意見をふまえて、自らの考えを述べる事ができる。 <p>上記に対応した評価基準は以下のとおりである。</p> <p>A+ 上記1～5を自身で達成できる。</p> <p>A 上記1～5をほぼ自身で達成できる。</p> <p>B 上記1～5を教員の指導を受けながら達成できる。</p> <p>C 上記1～5を教員の指導を受けながら概ね達成できる。</p>
教材・参考文献・配布資料等	<p>毎回プリントを配布し、それに沿って進める。従って指定する教科書はない。</p>
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	